2023 年度点検・評価シート

・**評価の視点**【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針
【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針

・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。

・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。

・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

Ⅰ【現状】**原則 2023 年 5 月 1 日現在の状況で回答してください。**

対象部局	06 書道学科	責任者	綿引浩一	
基準 4	教育課程・学習成果		自己評価	B

★基準 4 の自己評価の理由を簡潔に解説してください。

≪回答≫
書道学科では、学位授与方針と教育課程の編成・実施方針を定め、公表し、これに基づき学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成し、学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じ、成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていますが、評価指標の活用と学習成果の測定方法を開発しておらず、適切な根拠資料に基づく定期的な点検・評価を実施していません。そのため、自己評価は B とします。

点検・評価項目 (1)	4-1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。		
★<学位授与方針>（記入してください。） 書道学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（書道学）の学位を授与する。 １．豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能 (1) 漢字・仮名の文字文化を、周辺の諸領域とともに理解し考察することができる。 (2) 書作と書学の両面においてバランスのとれた基礎力と応用力を身につけている。 (3) 豊かで幅広い教養と高い倫理性を身につけている。 ２．他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力 (1) 芸術表現としての「書」の歴史を踏まえて、高い表現技法と鑑賞する力を身につけている。 (2) 書の素晴らしさを感じ取り、その感動を人に伝え指導することができる。 ３．自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感 (1) 現代社会における「書」の文化的役割や機能を主体的に担い、推進する能力を身につけている。 ４．本学の建学の精神や本学の理念に対する理解 (1) 建学の精神である漢学の振興に基づき、グローバルな視野で異文化を理解し、多文化共生社会を推進する能力を身につけている。	変更	有() 無(○)
評価の視点 1 【基礎要件●】	上記の方針は、修得すべき知識、技能、態度等の学修成果が明示され授与する学位にふさわしい内容となっている。		
評価の視点 2※ 【基礎要件●】	上記の方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート 7		

◆**学位授与方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。**

≪回答≫
特にありません。

点検・評価項目 (2)	4-2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。		
★<教育課程の編成・実施方針>（記入してください。） 書道学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。 １．教育内容 (1) 書道学科は、書作と書学からなる書道学を体系的に学ぶために書作と書学の科目の連携を図り、その基礎力から応用力までを身につける。	変更	有() 無(○)

(2) 外国語科目においては、1年次の必修科目「中国語学基礎演習 1・2」と2年次の必修科目「中国語学基礎演習 3・4」の履修を通して、書道と関連の深い中国語学を習得し、語学力の養成を図るとともに異文化に対する理解を深める。
(3) 全学共通科目においては、「文学 A·B」「歴史学 A·B」「情報科学 A·B」といった科目の履修を通して、人文・社会・自然諸科学にわたる幅広い教養の形成を図る。
(4) 初年次においては、必修科目である「書道学基礎演習」の履修を通して、書道学の学修に必要な基礎力を養成する。
(5) 必修科目群では、初年次において「楷書法 1（書写を含む）」「行草書法 1（書写を含む）」「仮名書法 1（書写を含む）」といった科目の履修を通して、漢字・仮名等の書表現の基礎を修得する。また「日本書道史通論」「中国書道史通論」を履修することにより書道史の基礎力を養成する。さらに2年次では「書学基礎研究 1・2」といった科目を履修することを通して書学の基礎を幅広く修得する。
(6) 選択科目群では、2年次において「漢字仮名交じりの書法 1」「篆刻法」といった科目の履修を通して漢字仮名交じり・篆刻等の書表現をも修得する。また2年次の「書跡文化財学概説」や3年次の「書論講読」等により書論・書跡等の研究能力を育成する。
(7) 選択科目群では、「書道美学論」「中国美術史」「日本美術史」「日本文学史概説 A・B」といった科目の履修を通して美学・美術史や文学等の学際領域も広く視野に入れて、現代社会における書文化の機能とあり方を考察できるようにする。
(8) 選択科目群では、「日本文化実地演習」といった科目の履修を通して、国内の書跡作品を実際に観察することの意義と鑑賞力を養成する。さらに「漢字文化実地演習」の履修を通して、中国や台湾での書道の体験学習や古今の書跡の鑑賞により異文化に対する理解を深める。
(9) 各学生が自らの希望・選択する分野でより専門的履修が行えるように、3年次よりすべての学生が書作ゼミと書学ゼミのダブルゼミを受講する他校に類を見ない教育課程を整備している。
(10) 4学年においては、それまでに修得した能力を発展・応用させて「卒業論文」と「卒業制作」をまとめる。

２．教育方法

(1) 主体的な学びを促進するために、専門科目においては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を採用する。
(2) 3年次より書作ゼミ 1、書学ゼミ 1 の2つのゼミの履修を必修化し、インタラクティブな教育を実施する。
(3) 2年次では国内、3年次では海外の体験学習を含む授業の受講を積極的に推奨している。
(4) 1年次と2年次には学内ギャラリーで「秋季展」を開催。また1年次はこれに加えて「新入生歓迎展」を開催し、段階的な学修成果の発表の場を設けている。
(5) 学外の美術館・ギャラリーで3年次には「ゼミ制作展」、4年次には「卒業制作展」を開催し、学修成果の発表の場を設けるとともに展覧会運営のプロセスを学ぶ機会を取り入れている。

３．評価方法

(1) 学位授与方針で掲げられた能力の評価として、文学部における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA 等の結果によって測定するものとする。
(2) 学位授与方針で掲げられた形成的評価として、学期毎に成績不振者に対して教員による個人的面談を実施する。
(3) 4年間の総括的な学修成果として、複数教員による卒業論文・卒業制作の評価を行う。

評価の視点１ 【基礎要件●】	上記の方針は、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態など、教育についての基本的な考え方を明示している。
評価の視点２ 【基礎要件●】	上記の方針は、学位授与方針に整合している。
評価の視点３※ 【基礎要件●】	上記の方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート７

（DP と CP の各項目の番号を矢印で紐づけてください。）

ＤＰ１．（１）→ＣＰ１．（５）
ＤＰ１．（２）→ＣＰ．１（１）、ＣＰ．１（９）、ＣＰ．１（１０）、ＣＰ．２（２）
ＤＰ１．（３）→ＣＰ．１（３）
ＤＰ２．（１）→ＣＰ．１（８）
ＤＰ２．（２）→ＣＰ．２（４）

ＤＰ３．（１）→ＣＰ．１（７）、ＣＰ．１（８）
ＤＰ４．（１）→ＣＰ．１（２）

★項目 (2) 4-2DP１から DP４について、それぞれの内容がどのように CP の内容に反映されているのか（あるいは教育課程のどこで具現化されるのか)、その連関について説明してください。
以下の事例を参考に記述してください。※事例は過去のものです。なおここでは DP１のみ抜粋ですが続きがあります。
・ＤＰ「１．知識・技能」（１）に明示した、「日本の文学と言語・文化に関する基本的な知識」「専門的な知見」と、ＤＰ「１．知識・技能」（２）の「文献や資料を的確に読解する」については、ＣＰ「１．教育内容」（１）で、『「日本文学史概説」「日本語学概説」などで体系的・通史的な知識や素養を身につけ』とされ、ＣＰ「１．教育内容」（２）で『「日本文学講読」「日本語学講読」や各分野の「特殊講義」などで、特定の主題に関する専門的な知識を身につける。』と明示されている。

≪回答≫
・ＤＰ「１．豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能」（１）に明示した、「漢字・仮名の文字文化を、周辺の諸領域とともに理解し考察することができる」については、ＣＰ「１．教育内容」（５）に「必修科目群では、初年次において『楷書法１（書写を含む)』『行草書法１（書写を含む)』『仮名書法１（書写を含む)』といった科目の履修を通して、漢字・仮名等の書表現の基礎を修得する。また『日本書道史通論』『中国書道史通論』を履修することにより書道史の基礎力を養成する。さらに２年次では『書学基礎研究１・2』といった科目を履修することを通して書学の基礎を幅広く修得する」と明示されている。
・ＤＰ「１．豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能」（２）に明示した、「書作と書学の両面においてバランスのとれた基礎力と応用力を身につけている」については、ＣＰ「１．教育内容」（１）に「書道学科は、書作と書学からなる書道学を体系的に学ぶために書作と書学の科目の連携を図り、その基礎力から応用力までを身につける」と明示され、ＣＰ「１．教育内容」（９）に「各学生が自らの希望・選択する分野でより専門的履修が行えるように、３年次よりすべての学生が書作ゼミと書学ゼミのダブルゼミを受講する他校に類を見ない教育課程を整備している」と明示され、ＣＰ「１．教育内容」（１０）に「４学年においては、それまでに修得した能力を発展・応用させて『卒業論文』と『卒業制作』としてまとめる」と明示され、ＣＰ「２．教育方法」（２）に「３年次より書作ゼミ１、書学ゼミ１の２つのゼミの履修を必修化し、インタラクティブな教育を実施する」と明示されている。
・ＤＰ「１．豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能」（３）に明示した、「豊かで幅広い教養と高い倫理性を身につけている」については、ＣＰ「１．教育内容」（３）に「全学共通科目においては、『文学 A･B』『歴史学 A･B』『情報科学 A･B』といった科目の履修を通して、人文・社会・自然諸科学にわたる幅広い教養の形成を図る」と明示されている。
・ＤＰ「２．他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力」（１）に明示した、「芸術表現としての「書」の歴史を踏まえて、高い表現技法と鑑賞する力を身につけている」については、ＣＰ「１．教育内容」（８）に「選択科目群では、『日本文化実地演習』といった科目の履修を通して、国内の書跡作品を実際に観察することの意義と鑑賞力を養成する。さらに『漢字文化実地演習』の履修を通して、中国や台湾での書道の体験学習や古今の書跡の鑑賞により異文化に対する理解を深める」と明示されている。
・ＤＰ「２．他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力」（２）に明示した、「書の素晴らしさを感じ取り、その感動を人に伝え指導することができる」については、ＣＰ「２．教育方法」（４）に「１年次と２年次には学内ギャラリーで「秋季展」を開催。また１年次はこれに加えて「新入生歓迎展」を開催し、段階的な学修成果の発表の場を設けている」と明示されている。
・ＤＰ「３．自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感」（１）に明示した、「現代社会における「書」の文化的役割や機能を主体的に担い、推進する能力を身につけている」については、ＣＰ「１．教育内容」（７）に「選択科目群では、『書道美学論』『中国美術史』『日本美術史』『日本文学史概説 A・B』といった科目の履修を通して美学・美術史や文学等の学際領域も広く視野に入れて、現代社会における書文化の機能とあり方を考察できるようにする」と明示され、ＣＰ「１．教育内容」（８）に「選択科目群では、『日本文化実地演習』といった科目の履修を通して、国内の書跡作品を実際に観察することの意義と鑑賞力を養成する。さらに『漢字文化実地演習』の履修を通して、中国や台湾での書道の体験学習や古今の書跡の鑑賞により異文化に対する理解を深める」と明示されている。
・ＤＰ「４．本学の建学の精神や本学の理念に対する理解」（１）に明示した、「建学の精神である漢学の振興に基づき、グローバルな視野で異文化を理解し、多文化共生社会を推進する能力を身につけている」については、ＣＰ「１．教育内容」（２）に「外国語科目においては、１年次の必修科目「中国語学基礎演習１・2」と２年次の必修科目「中国語学基礎演習３・4」の履修を通して、書道と関連の深い中国語学を習得し、語学力の養成を図るとともに異文化に対する理解を深める」と明示されている。

◆教育課程の編成・実施方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。

≪回答≫
特にありません。

点検・評価項目 (3)	4-3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編

	成しているか。
評価の視点１※	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性を図っている。根拠資料→A1-1＊学則、A4-43Web サイト シラバス
評価の視点２※	学習の順次性に配慮した各授業科目の年次・学期配当をしている。根拠資料→B4-68Web サイト カリキュラムツリー
評価の視点３※	専門分野の学問体系を考慮した教育課程を編成している。根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ
評価の視点４※	学習成果を修得させるために適切な授業期間を設定している。 根拠資料→A1-1＊学則、B1-10-1~8 2023 年度 各学部履修の手引き
評価の視点５※	単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしている。根拠資料→A1-1＊学則、基礎要件確認シート 9、10
評価の視点６※	教育課程を編成する措置として、個々の授業科目の内容及び方法は適切に設定されている。 根拠資料→A4-13Web サイト 科目ナンバリング、A4-43Web サイト シラバス
評価の視点７※	編成方針に基づき、授業科目を必修、選択等位置づけており履修の手引きに掲載している。 根拠資料→B1-10-1~8 2023 年度 各学部履修の手引き
評価の視点８	初年次教育・高大接続に配慮した授業として、「プレイスメントテスト」などによるクラス編成や、基礎的な科目の内容を深める授業を実施している。

★項目 (3) 4-3①初年次教育・高大接続に配慮した授業について、根拠資料（該当するシラバス、履修の手引き該当ページなど）を用いて、概要を解説してください。

≪回答≫	≪根拠資料≫
初年次教育として、一年次必修科目「書道学基礎演習」の第一回目授業において、『文学部へようこそ』をサブテキストとして、学生生活の心構えやレポート・論文の書き方等の基礎的な講義をしています。 高大接続によるキャリア教育プログラムの検討として、高等学校書道の教員を志望する３年生がインターンシップとして、大東文化大第一高等学校における書道の授業にティーチングアシスタント等の形で参画することで、教員の仕事に接する機会を増すことを計画し、高等学校側と検討し実施しましたが、2020 年度・2021 年度・2022 年度はコロナ禍のため実施を見送りました。	06-C4-1：①シラバス（書道学基礎演習）、②2023 年度書道学基礎演習一覧表、③2022（R4）事業報告兼業務確認シート（No. 9）

評価の視点９※	教養教育と専門教育を適切に配置している。 根拠資料→B1-10-1~8 2023 年度 各学部履修の手引き
評価の視点１０※	学科の教育研究上の目的や課程修了時の学修成果と、各授業科目との関係を明確にしている。 根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ
評価の視点１１	学生の社会的、職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を実施している。

★項目 (3) 4-3②社会的、職業的自立を図るために必要な能力の育成として実施しているキャリア教育について、根拠資料（該当するシラバス、教育プログラムの場合はその制度が分かる資料など）を用いて回答してください。

≪回答≫	≪根拠資料≫
1 年生対象の書道学基礎演習（オムニバス）の 1 コマを使用して、キャリアセンターの職員に話を頂くほか、3 年生には昼休みに、本学科生の希望が多い、教員採用試験の合格者、公務員試験の合格者、就職内定者が経験談を話す会を開催し、本学科生のキャリア教育に役立てています。	06-C4-2：2023 年度書道学基礎演習一覧表

★項目 (3) 4-3③「DAITO BASIS」科目として推奨されている科目で、全学共通科目以外として推奨している学部開設の科目について、科目名を明記してください。また、その設定・選定の基準について説明してください。

≪回答≫

書道学科では、「総合英語 A」「総合英語 B」を推奨しています。設定・選定の基準は、「国際性の確保」としており、学生に国際的コミュニケーション能力の基礎力を確保させるようにしています。

★項目 (3) 4-3④当該部局のカリキュラム全体の編成と、授業科目の配置の特色について解説してください。

≪回答≫

書道学科のカリキュラムの編成、授業科目の配置の最大の特性は、 3 年次・4 年次連年で書作と書学の「ダブルゼミ」の履修を必修化し、インタラクティブな教育を実施していることにあります。

◆授業科目の開設や、教育課程の体系的な編成について問題点があれば記述してください。

≪回答≫

特にありません。

点検・評価項目 (4)	4-4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

評価の視点１※ 【基礎要件●】	学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、履修登録単位数の上限設定を実施している。 根拠資料→A1-1＊学則、基礎要件確認シート９

★項目 (4) 4-4①履修登録単位数の上限設定について、一部の科目を対象外としている場合、単位の実質化を図るうえでどのような措置をとっているか回答してください。
（注：「単位の実質化を図る措置」としては、教育課程上の配慮、授業時間外における学習を促進するための取り組みや、学習支援などです。いずれの場合もどのように取り組んでいるかを具体的に記述してください。）

≪回答≫
対象外としている科目は、諸資格課程科目のみです。現時点では実質化を図る措置は講じておりません。

★項目 (4) 4-4②規則上、長期海外留学からの帰国学生、編入学生、転学部・転学科生については、教授会の審査・承認を経て、上限を超える履修登録を認めることができる（履修登録単位数の上限を超えることを**承認した教授会議事録が必要**）。とあります。この場合も単位の実質化を図るうえでどのような措置をとっているか回答してください。

≪回答≫ 履修登録単位数の上限を超える単位を承認したことはありません。	≪根拠資料≫ **06-C4-3：無**
★（上限設定の対象外としている科目を履修登録している学生数を記入してください。） ①諸資格科目（教職課程科目、その他諸資格科目、副専攻等）履修学生数：132 人 ②長期海外留学終了者　学生数：0 人 ③編入生　学生数：0 人 ④転学部・転学科生　学生数：0 人	≪根拠資料≫ **06-C4-4：諸資格履修者データ（文学部）**

評価の視点２※	シラバスの内容（到達目標・学修成果の指標・授業内容及び方法・授業計画・授業準備のための指示・成績評価方法及び基準等の明示）に基づいた授業を実施し、整合性が図れている。 根拠資料→A4-43Web サイト シラバス、B6-21-1「学生による授業認識アンケート」
評価の視点３※	シラバスの記載内容の第三者チェックの実施結果を教授会で報告、検証している。 根拠資料→B4-40 シラバスチェック実施報告、B4-42 シラバスチェック体制
評価の視点４	学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法を取り入れている。

★項目 (4) 4-4③学生の主体的参加を促す授業について、以下(1)(2)(3)(4)に該当する事例を根拠資料（該当するシラバス、履修の手引き該当ページなど）を用いて解説してください。

(1)主体的な学び（演習、実習、フィールドワークなど）の事例

≪回答≫ ・本学科開設以来継続開講している３年次対象『書道文化演習２（海外）』(2022 年度より『漢字文化実地演習』に科目名変更）は、「学術交流協定書」ならびに「書画短期研修のための覚書」を締結している、国立台湾芸術大学美術学院書画芸術学系と中国美術学院国教育学院での現地研修を毎年交互に実施しています。現地校での充実した授業や学生との交流、博物館・名所旧跡などの見学を通じて、書の理解の拡充と実技能力を向上、国際理解の拡大等を期して、学科事業の基幹科目として行っています。但し、2020 年度・2021 年度・2022 年度はコロナ禍のため台湾研修を中止しました。 ・本学科開設以来継続開講している２年次対象『書道文化演習１（国内）』(2022 年度より『日本文化実地演習』に科目名変更）は授業後半回で京都・大阪への実地演習を実施しています。但し、2020 年度・2021 年度はコロナ禍のため国内研修を中止、2022 年度再開、京都・埼玉小川町にて実施しています。 ・その他にも、『書跡鑑賞研究』、『日本美術史』なども授業後半回で美術館への実地演習を実施しています。	≪根拠資料≫ **06-C4-5：①大東書学 23 号〔授業等報告〕日本文化実地演習・漢字文化実地演習、②日本文化実地演習(京都研修)行程表、③日本文化実地演習（小川町実習）実施概要**

(2)インタラクティブ（双方向）な授業展開のための少人数授業の事例

≪回答≫ 3 年次・4 年次連年履修の書作と書学の「ダブルゼミ」の授業は、インタラクティブな教育を実施するため、各ゼミとも上限を原則 16 名に設定しています。	≪根拠資料≫ **06-C4-6：2023 年度書道学科第 20 期生・21 期生書学ゼミ一覧・書作ゼミ一覧**

(3)教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保の事例

≪回答≫ ・教員・学生間や学生同士のコミュニケーションの最初の機会は、「オリエンテーション合宿（一泊二日）」を実施することで確保してきました。書道学科創設からの3年間は代々木青少年センターで、そ	≪根拠資料≫ **06-C4-7：①2023 年度オリエンテーション合宿スケ**

の後は国立女性教育会館（ヌエック）で実施してきました。2011年度・2012年度は東日本大震災の影響により実施できませんでしたが、2013年度より復活し、新入生の友人関係の構築の手段として非常に有益であります。平成28年度からは全額を学科予算化し、「学生への還元」をテーマに、よりよいオリエンテーションを実施できるよう進めています。但し、コロナ感染対策のため、2020年度・2021年度・2022年度は実施を見送らざるを得ませんでした。2023年度はヌエックにて再開可能となり、その実施効果について再確認できました。 ・書道学科の伝統行事の一つである「夏季研修（通い合宿）」は、1・2年生にとっては、メインイベントの《秋季展》に展示する半切作品を制作するための２日間にわたる研修会であり、3・4年生のゼミ長、大学院生、TAの先輩方と楽しくフレンドリーに出会える唯一の場でもあります。専任教員全員が参加することにより、教員・学生間や学生同士のコミュニケーションの機会を確保しています。但し、コロナ感染対策のため、2020年度・2021年度は開催を見送り、2022年度はスケジュールを簡略化して実施しました。	ジュール、②2023年度オリエンテーション合宿しおり、③2023年度オリエンテーション合宿アンケート結果、④20230508書道学科協議会議事録　（オリエンテーション合宿アンケート）、⑤20230522臨時書道学科協議会議事録（オリエンテーション合宿アンケート）、⑥2022年度通い合宿スケジュール
(4)授業方法として、グループ活動の活用の事例	
≪回答≫ 2021年度後期に、1年次の専門教育科目・必修科目『書道学概論２』において、毎回Zoomのブレイクアウトルームを用いてグループディスカッション（15分）の活動を展開しました。2022年度は対面にて実施しました。	≪根拠資料≫ 06-C4-8：①2023年度シラバス（書道学概論２）、②2022年度ガイダンス（書道学概論２）、③2022年度授業ノート（発表日一覧）（書道学概論２）
(5)効果的な授業方法について上記(1)～(4)以外の事例	
≪回答≫ 一年次必修科目「書道学基礎演習」において、各教員の専門分野の入門講義をオムニバス形式で行っています。その中で、外部から他分野の専門家を講師として招き、本物の文物を実見する授業などの特別授業も取り入れています。	≪根拠資料≫ 06-C4-9：2023年度書道学基礎演習一覧表

評価の視点５	学習の進捗と学生の理解度の確認
★項目(4) 4-4④授業を行ううえで、学習の進捗と受講する学生の理解度の確認をするために、当該部局としてどのような措置を講じているか、回答してください。	
≪回答≫ ・2011年7月より、「大東書道学会大会」のなかで、全学年に書道に関する基礎的知識を問う「書道学科統一模試」を実施しています。これは「書道学」の二大支柱の一つである“書学”への意識を高揚させ刺激する目的で企画したものです。同時に上級学年の学生にとっては教員採用試験対策としても有効な方策になっています。テスト内容の更なる充実とより効果的な実施方法、集計結果の活用などを教学両面においてフィードバックしています。但し、コロナ禍感染対策のため、2020年度・2021年度は実施を見送りましたが、2022年度は学会の再開とともに実施しました。 ・3年次・4年次連年履修の書作と書学の「ダブルゼミ」において、年度始めに「合同ゼミガイダンス」を実施し、特に4年生の卒業制作と卒業論文の進捗状況を確認するために、「卒業制作題目登録用紙」と「卒業論文題目登録用紙」に各3回検印し、「合同卒業論文中間発表会（９月）」と「合同卒業制作中間発表会（１０月）」を各１回実施しています。	
評価の視点６※	授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導 （履修登録に関するガイダンスやオリエンテーションなど適切な履修指導を実施している（オンラインも含む））。根拠資料→B4-69 履修登録に関するガイダンスやオリエンテーション実施要項,（オンラインの場合はWebサイトも可→別紙の備考にURL記入）
評価の視点７※	授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示 根拠資料→A4-43Webサイト シラバス
★項目(4) 4-4⑤オンライン教育も含めて、授業外学習に資するフィードバックの方法や、量的・質的に適当な学習課題を提示しているか、どのように確認していますか。その方法などについて根拠資料を用いて回答してください。	
≪回答≫ 授業外学習における学習課題の提示については、その適性を確認していません。	≪根拠資料≫ 06-C4-10：無
評価の視点８	授業形態によって１授業あたりの学生数について配慮している。
★項目(4) 4-4⑥授業形態（講義、実習、演習）によって、１授業当たりの学生数を設定している場合、授業形態別に事例を回答してください。（例：演習科目、実習科目は少人数（原則10名以下）、大規模講義科目は原則200名まで、など）	

≪回答≫
講義系科目については上限を設定していません。専門科目の実技（実習）科目については、１年生の『楷書法１（書写を含む)』『行草書法１（書写を含む)』『仮名書法１（書写を含む)』はＡクラス・Ｂクラス各 35 名以内で開講しています。３・４年生の書作ゼミ（演習科目）は各ゼミとも上限を 16 名に設定しています。

評価の視点９	学習を活性化するための学習支援ツールや授業外学習（予習・復習）を奨励する取り組みを実施している。

★項目 (4) 4-4⑦学習支援ツールや授業外学習（予習・復習）を奨励する取り組みについて、記述してください。

≪回答≫	≪根拠資料≫
全日本高校・大学生書道展や大東文化大学主催全国書道展などの全国規模の外部公募展への出品を奨励し、作品制作研究の機会を拡げ、学習成果の向上に繋げています。発表の機会を得て客観的な評価を受けることによって、学生が達成度を自覚し、研究の方向性をより明確にすることができます。	**06-C4-11：①2023 年度高大展出品要項、②第 63 回全国書道展出品要項、③第 63 回全国書道展受賞者一覧**

◆学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置について問題点があれば記述してください。

≪回答≫
展覧会（学内・学外）の作品制作においては、授業内では指導時間が限られているため、授業外での追加指導で補っています。

点検・評価項目 (5)	**4-5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。**
評価の視点１※ **【基礎要件●】**	成績評価及び単位認定を適切に行うための措置として以下を行っている。 ・単位制度の趣旨に基づく単位認定 ・既修得単位認定等の適切な認定 ・GPA による成績評価 ・成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・成績評価及び単位認定に関わる全学的ルールの設定その他全学内部質保証推進組織の関わり 根拠資料→A1-1＊学則、基礎要件確認シート 10,12、B4-74 オンライン教育に鑑み成績評価の公正性、公平性を担保するための措置を示す資料
評価の視点２※ **【基礎要件●】**	学位授与を適切に行うための措置として以下を行っている。 ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表【修士・博士】 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示 ・適切な学位授与 ・学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり 根拠資料→A1-1＊学則、A4-36＊学位規則、基礎要件確認シート 10,12

◆成績評価、単位認定及び学位授与について問題点があれば記述してください。

≪回答≫
成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていますが、評価に関しては担当教員個々の判定が主体とならざるを得ません。そのため、3，4 年生を対象とした卒業論文・卒業制作の合同中間発表の機会を設け、全教員による評価と学習成果の測定を実施することで客観性を担保しています。

点検・評価項目 (6)	**4-6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。**
評価の視点１※ **【評価要件○】**	学位課程の分野の特性に応じた学修成果を測定するための指標（特に専門的な職業との関連性が強いものにあっては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。）を設定している。 ※指標は定量的指標、定性的指標を複数組み合わせて設定することが望ましい。 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果
評価の視点２※ **【評価要件○】**	学生の学習成果の測定方法を開発している。 ≪学習成果の測定方法例≫ ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取

	根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果

★項目 (6) 4-6①全学部・学科、研究科・専攻で共通設定している「DP に示す学習成果（能力や資質）」「学生アンケートや調査」以外で、部局独自として設定している学習成果の測定をするための指標と、その測定方法をすべて記述してください。

≪回答≫ 学習成果の修得を図るための評価指標として、2021 年度に初めて書道学科の特性を活かした「卒業論文・卒業制作の成績」を開発し、到達目標を「９割以上が論文・制作ともに提出。提出者の５割以上が S～A 評価であること」としました。	≪根拠資料≫ **06-C4-12：基準 4 卒業論文・卒業制作の成績**

★項目 (6) 4-6②学習成果を測定した結果（共通設定と、独自設定含む）について代表的事例を回答してください。また、全ての測定結果を根拠資料として提出してください。

≪回答≫ 「卒業論文・卒業制作成績」について、測定結果を学科協議会にて共有しました。書道学科として、設定した到達目標である「９割以上が論文・制作ともに提出。提出者の５割以上が S～A 評価であること」を達成していることを確認しました。 「学修行動調査」の測定結果をまとめ、学科協議会で共有しました。 書に関する基礎的知識については、「大東書道学会」において「書道学科統一模試」を実施し、その解答と解説、測定結果を学会誌にて公表、学生の学修意識の向上に繋げています。 **制作においては、1・2 年次の秋季展、3 年次のゼミ展、4 年次の卒業制作展が学習成果の発表の場となっています。また、全日本高校・大学生書道展、大東文化大学主催全国書道展等の外部の展覧会において審査・評価を受けています。**	≪根拠資料≫ **06-C4-13：①2022 年度「卒業論文・卒業制作成績」測定結果、②「学修行動調査」測定結果、③20230301 書道学科協議会議事録、④大東書学 23 号書道学科統一テスト、⑤2023 年度高大展出品要項、⑥第 27 回高大展審査結果（個人）、⑦第 27 回高大展審査結果（団体）、⑧第 63 回全国書道展出品要項、⑨第 63 回全国書道展受賞者一覧**

★学習成果の指標と測定方法に関する課題や長所などを記述してください。

≪回答≫
実技科目においては、学習成果を客観的に数値化することはできません。しかし、作品制作を契機として、それに向けた教員の個別指導による技術の鍛錬、および表現を裏付ける知識と理論の獲得によって成果が表れます。また、展覧会等に発表することによって学生間の相互評価と外部の客観的な評価を確認することができます。

★学習成果の測定結果の分析方法に関して課題や長所などを記述してください。

≪回答≫
学習成果の評価指標を定めていますが、その結果を活用するための指針は定めていません。

点検・評価項目 (7)	**4-7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。**
評価の視点１※ **【評価要件〇】**	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 ・学習成果の測定結果の適切な活用 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果、B2-51 2023 年度点検・評価シート、B2-52 会議録（または準ずるメール記録）：（開催日）2023 年度自己点検・評価について
評価の視点２ **【評価要件〇】**	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取組みを行っている。

★項目 (7) 4-7①学習成果測定の実績と、実際の測定結果にもとづいた教育改善の取り組み状況を、具体的に回答してください。

他大学事例：
・論文やプレゼンテーションなど成果報告の機会が広がり、その開催方法も交流や競争性を取り入れた場へと展開している。
・「学生の授業に関する調査」結果に対して、授業担当者はコメントや具体的な改善策を公表している。
・英語に関する学習成果把握の取り組みとして、全学年対象の英語アチーブメントテストの結果を英語スコア管理システムにより一元的に管理し FD 部会でデータの検証を行い英語教育の改善に取り組んでいる。
・論文中間発表や論文審査基準の結果をもとに、カリキュラムとその内容、授業方法を自己点検し、特に博士論文は、助成制度を設けているため学術的水準の維持、向上に繋げている。

≪回答≫ 学習成果の測定結果を活用した事例はありません。	≪根拠資料≫ **06-C4-14：無**

★項目 (7) 4-7②改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。2019 年度以降の取り組みも含めて記述してください。	
≪回答≫ 書道学科ではこれまで点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取組みを行っていません。	≪根拠資料≫ 06-C4-15：無

Ⅱ現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項（工夫していること）を、意図した成果（目標）を明確にして記述してください。
※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・特色	

Ⅲ今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。
※注：複数記述可、ただし 2023 年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題点・課題	

Ⅳ【改善計画（事業計画）】

カテゴリ	計画番号	B 票No.or 開始年度	改善計画（アクションプラン）	内容（改善を要すると判断した根拠）	目標の評価指標	目標値	年度計画
②	1	2022-4 Ⅲ-1(4-7)	評価指標「卒業論文・卒業制作の成績」の活用と学修成果可視化のための直接評価指標の検討・開発・活用	2021 年度に開発した学習成果の修得を図るための評価指標「卒業論文・卒業制作の成績」を、2022 年度以降どのように活用にするかについて学科協議会の案件として検討を始めるとともに、書道学科の特性を活かした学修成果可視化のための直接評価指標の検討・開発・活用についても学科協議会の案件として検討を始めます。	評価指標の検討・開発・活用についての学科協議会の案件として取り組む回数	A(100%)：3 回 B(80%)：2 回 C(50%)：1 回 D(20%)：—	2022 末結果：B 2023：A
①	2	2023 (2022～継続)	卒業研究発表会及び研究集録誌刊行	「書」を専門的に研究してきた学生達が、４年間の学術芸術活動の成果を対外的に発信することは重要である。そのため、東京都美術館で卒業書作展を開催するとともに、卒業生各自の卒業論文要旨と卒業制作作品を収載した研究集録刊行の事業を行う。	①学修成果発表の増進	A(100%)：展覧会実施後、次年度の卒業研究発表会及び研究集録誌刊行にむけて、後輩に引継ぎを行う。 B(80%)：展覧会を実施し、研究収録誌を刊行する。 C(50%)：４年生全員が卒業書作品を提出する。 D(20%)：実施に向けて手配を進める。	2023：ABCD
①	3	2023 (2022～継続)	書道学科全学年統一テストの実施	平成 23 年 7 月より、大東書道学会大会のなかで、書道に関する基礎的知識を問う全学年統一テストを実施している。これは「書道学」の二大支柱の一つである“書学”への意識を高揚させ刺激する目的で企画したものである。同時に上級学年の学生	①学生の修学意識向上を図る。 ②テスト結果の分析を基に学生個人、学科として新たな目標を定める。 ③書学関連の授業の成果を確認し、芸術科書道の高校教員を目指す学生は、専門	A(100%)： 分析結果を学生へ報告し、学生個人または学科として新たな目標を定める。 B(80%)：テストの結果を分析し、学年ごとや分野ごとの回答率を見出す。	2023：ABCD

				にとっては教員採用試験対策としても有効な方策である。テスト内容の更なる充実とより効果的な実施方法、集計結果の活用などを教学両面においてフィードバックしていく。	試験のための準備の指針とする。 ④学生個々の成績（学習レベル）及び各学年総体的レベル（教員が各学年に求めるレベル）を把握し、FD活動として有効活用する。	C(50%)：全学年のうち９割以上がテストを受験する。 D(20%)：見学の要望を取りまとめる。	
①	6	2023 (2022～継続)	海外演習の実施	本学科開設以来継続開講している３年次対象「漢字文化実地演習」(旧「書道文化演習２（海外）」)は、「学術交流協定書」ならびに「書画短期研修のための覚書」を締結している、国立台湾芸術大学美術学院書画芸術学系と中国美術学院国教育学院での現地研修を毎年交互に実施している。現地校での充実した授業や学生との交流、博物館・名所旧跡などの見学を通じて、書の理解の拡充と実技能力を向上、国際理解の拡大等を期して、学科事業の基幹科目として行っている。令和５年度は台湾への研修を予定。	①現地での異文化体験を通じた教育効果を増進する。 ②交流協定校との関係の強化を図る。	A(100%)：実施後のフィードバックを行う。 B(80%)：海外実習を実施をする。 C(50%)：海外実習に向けて具体的な計画を練り、情報共有をする。 D(20%)：海外実習に向けた情報収集を徹底する。	2023：ABCD
①	7	2023	国内演習の実施	学科開設以来開講している２年次対象の「日本文化実地演習」では、これまでと同様に京都の陽明文庫や寺社などの見学に加え、世界遺産に登録された小川町の和紙文化を体験的に学ぶ。貴重な文化財を伝称する場や史跡、生産の現場に出向くことによって、書を中心とする日本文化に対する関心を喚起し、保護保存や活用、鑑賞などに対する意識を高める。	①書を中心とする伝統文化の今日的な状況を把握する。 ②日本文化の担い手としての意識を高める。	A(100%)：実施後のフィードバックを行う。 B(80%)：国内演習を実施する。 C(50%)：国内演習に向けて事前に集めた情報を参加者で共有する。 D(20%)：国内演習に向けて情報収集を行う。	2023：ABCD
①	8	2023 (2022～継続)	キャリア教育	１年生対象の書道学基礎研究（オムニバス）の１コマを使用して、キャリアセンターの職員に話を頂くほか、３年生には昼休みに、本学科生の希望が多い、教員採用試験の合格者、公務員試験の合格者、就職内定者が経験談を話す会を開催し、本学科生のキャリア教育に役立てる。	①キャリアに対する学生の意識向上に資する。	A(100%)：学生各自の目標に向けた４年間の計画を練る。 B(80%)：キャリア教育の実施を通して、学生間で情報共有を図り、学生各自で目標を設定する。 C(50%)：書道学基礎演習にてキャリア教育を実施する。 D(20%)：キャリア教育の実施に向け、１年生の意識調査等の情報収集をする。	2023：ABCD

V【内部質保証委員会による点検・評価】

2022 年度＜所見＞
インタラクティブ（双方向）な授業展開のための少人数授業の事例、教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保の事例、授業方法としてグループ活動の活用の事例に記された積極的な取り組みは高く評価できる。また、書道学科の特性を活かした「卒業論文・卒業制作の成績」を開発し、到達目標を「９割以上が論文・制作ともに提出。提出者の５割以上が S～A 評価であること」としたことも評価できる。そのほか、学位授与方針（DP）に示した学習成果の積み上げ（能力の積算）、学習成果の測定を目標とした学修行動調査を評価指標としている。測定結果の活用としては、カリキュラムの検証、ＤＰに示した学習成果の検証、学生支援内容の検討としている。今後、測定結果を活用した改善・向上への取り組みが望まれる。
2023 年度＜所見＞
書道学科の教育課程は DP（学位授与方針）と CP（教育課程の編成・実施方針）の関連が明確な形で編成されている。そのことは、カリキュラムツリー、カリキュラムマップ等及びそれにもとづく点検・評価シート等の根拠資料から確認できる。 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置としては、初年次教育として文学部作成の『文学部へようこそ』を使い、学生生活の心構えやレポート・論文の書き方等の指導をしていること、キャリア教育として１年時のオムニバス授業の１コマを使ってキャリアセンター職員に話を伺っていること、3 年時に教員採用試験や公務員試験の合格者や就職内定者が経験談を話す機会を開催していることは評価できる。また、3 年次・4 年次連年で書作と書学の少人数による「ダブルゼミ」の履修を義務付けていること、美術館への実地演習を授業に組み入れて行っていることなども評価できる。その他、ここ数年はコロナの影響があったとはいえ、「夏季研修（通い合宿）」は学生が大学院生や TA、専任教員とコミュニケーションを図ることのできる伝統行事であり、他に例を見ないユニークな企画であり、高く評価できる。 学生の学習成果の測定という点については、3，4 年生を対象にして卒業論文・卒業制作の合同中間発表を行い、全教員による評価と学修成果の測定を実施している。その結果、9 割以上が論文・制作ともに提出し、提出者の 5 割以上が S～A 評価であることが達成できたことは評価できる。また、学修行動調査結果による学生の満足度についても検証し課題を抽出されていることは評価できる。さらに、事業計画のアクションプランとして「キャリア教育」を設定されているので、目標とする「キャリアに対する学生の意識向上」を学習成果の測定に加えることも一考と思われる。その際の評価指標としては教員試験合格率や就職内定率、学生自身の目標達成率なども考えられるであろう。今後全学的な学修成果可視化の実現のために、DP（学位授与方針）・AG（到達目標）の修得度がグラフ化される過程において、書道学科の取り組みが一層活用されることが期待される。 また、事業計画の記載では、書道学科の特性を活かした学習成果可視化のための直接評価指標の検討・開発・活用についても学科協議会の検討案件に留まっていることから、具体的な目標設定などを掲げ取り組むなど改善が望まれる。

◆評価の基準について

※各基準の「自己評価」は、各部局の判断に委ねられます。なお、青字部分は、本学としての解釈です。

S	大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。 （評価の視点に対して、クリアしており、さらに向上させるための取り組みを行っている、または、他部局の参考となるような特色ある取り組みを行っている場合）
A	大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。 （評価の視点に対して、クリアしている状況と判断する場合）
B	大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。
C	大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

＜注＞「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。
解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

基準４教育課程・学習成果

【大学基準】

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備

えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

（解説）

大学は、その理念・目的を実現するために、授与する学位ごとに、修得すべき知識、技能、態度など当該学位にふさわしい学習成果を示した学位授与方針を定め、公表しなければならない。また、学位授与方針に基づき、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を示した教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。

大学は、学士課程、修士課程、博士課程及び大学院の専門職学位課程のいずれの学位課程にあっても、法令の定めに加え、自ら定める教育課程の編成・実施方針に基づいて授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しなければならない。その際、学術の動向や、グローバル化、情報活用の多様化その他の社会の変化・要請等に留意しつつ、それぞれの学位課程における教育研究上の目的や学習成果の修得のためにふさわしい授業科目を適切に開設する必要がある。また、学問の体系などを考慮するとともに、各授業科目を大学教育の一環として適切に組合せ、順次性に配慮し効果的に編成する必要がある。

大学は、教育課程の編成・実施方針に基づき、授業内外における学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じなければならない。その一環として、適切なシラバスを作成するとともに履修指導を適切に行い、また、授業や研究指導の計画に基づいて教育研究指導を行うほか、授業形態や授業内容、授業方法に工夫を凝らすなど、十分な措置を講ずることが必要である。

大学は、履修単位の認定方法に関して、いずれの学位課程においても、各授業科目の特徴や内容、授業形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿った措置を採ることが必要である。また、教育の質を保証するために、あらかじめ学生に明示した方法及び基準に則った厳格かつ適正な成績評価及び単位認定を経て、適切な責任体制及び手続によって学位授与を行わなければならない。

大学は、学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学習成果を学生が修得したかどうかを把握し、評価することが必要である。そのために、学習成果を様々な観点から把握し評価する方法や指標を開発し、それらを適用する必要がある。

大学は、教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。その際、把握し、評価した学生の学習成果を適切に活用することが重要である。